

” 来年の豪州合宿延期について” 2005.12.8(thu)

本ホームページの豪州合宿特設ページ（現在はありませぬ 2020.8）に来年の同合宿の延期を掲載しましたところ、実に多くの方々からお電話や直接お話を頂きました。ありがとうございます。改めて同企画への皆様のご期待の深さを感じました次第です。しかしながら、誠に心苦しいのですが、この決断は変えられません。航空チケットの高騰と補助金・支援企業不足が理由です。

“やはり子はかすがいですね。” 2005.11.22(tue)

またまたご無沙汰しておりました。色んな事がありました。でも、子はやっぱりかすがいですね。実感しました。

” 人間関係の緊張感” 2005.9.30(fri)

おはようございます。ほんところらはすっかりご無沙汰しておりました。先日 23 日に沖縄合宿の実施報告会も終え、ようやく落ち着きました。

時はもう明日からは 10 月。ここ藤枝も朝夕はすっかり秋めいてきました。お陰様で本業の静岡オープンスクールの中学部で、このところ入塾者が相次ぎ、教室もますます活気づいております。ご紹介ありがとうございます。また、NPO 静岡県教育フェアラムではこの 9 月、MSN メッセージの Web 会話による遠隔地個別指導もスタートし、いろんな効果を示してきております。パソコンを黒板に向け、当スクールの授業にも一緒に参加したりして、楽しくやっております。ほんところらに技術進歩にはびっくりですね。

そんな折、学校に行けない子供たちと話してまして、今の彼ら（彼女たち）の心の内を改めて垣間見た事がありましたので、少し書かせて頂きます。

なるべく授業に参加できるように学校側も配慮して、仲の良い友達を同じクラスにしたり、あるいは近所の同級生達を出来る限り同じクラスにしているようにしても、なかなか授業に参加できない。理由を聞くと、「知っている子達がいるからこそ、授業に出れないんだよねあ。」という返事が返ってくるんですね。ならば、どういう状態なら授業に参加できる？って尋ねると、「全く知らない子で、しかも多くて 5,6 人ならいいんだよね。」と言います。

これまで多くの精神科医、心理学者や臨床心理士達が不登校に関して様々に研究し、いろんな書物や論文が発表されている中で、私がここで結論じみた話をするつもりは毛頭ありませんが、この言葉から 4 年前静岡第一テレビから下田での合宿の取材を受け、放映された時に、テレビ静岡さんが取材した浜北のダダクリニックの大野木先生（臨床心理士）の話を思い出しました。「不登校の子達は人間関係を築くのが普通の子達よりちょっと苦手なんです。」人間関係を築くのがちょっと苦手だから、常日頃接する友達だとより失敗を恐れ、より強い張感を感じるんですね。その意味で彼ら（彼女たち）達の言葉は決して逆説的な言い方ではないんですね。

じゃあ、どうしてそうなるか。それはやはり核家族、少子化、そうした社会現象からく

る、”人の中での揉まれ不足”ではと思うんです。いかがですか？

” 沖縄合宿・・・夏期講習・・・衆議院議員選挙” 2005.8.24(wed)

沖縄・座間味。3年ぶりの訪問、なんと言っても素晴らしい自然、正に大自然。感動、感激の合宿でした。

そんな合宿の中、様々に、またそれぞれに変化しました参加した子供たち。それは自信であったり、自立でもあったり、あるいは自己の解放でもあった子もおります。残念ながら、課題の克服に今一步だった子もおりました。

でも、大成功だったと思います。初リーダーのさっちゃんに、ゆきちゃん、あっこちゃんと、けんくん。そして、初サブリーダーのみゆきちゃん。ご苦労様でした。大変だったけど、充実した合宿だったね。

また、個々に対応について話します。現在、実施報告会に向けて、報告書とビデオ&写真編集に取り組んでおります。参加者の皆様、今暫くお待ち下さい。

そして、休む間もなく、夏期講習。朝9時から夜10時まで、過酷な毎日ですが、本業をしっかりやらなければ、NPO活動もできません。声を嗄らして頑張っております。

つかの間のお盆休みも、スタッフ4人と共に常葉学園大学のためき村の仲間達と中川根で一泊しながらカヌー、川遊び。楽しかったです。

夏期講習再開の最中、静岡新聞記者から取材を受け、生意気にも衆議院選挙・自民党のマドンナ戦略についてコメントしちゃいました。どうもです。

また、つれづれに書きます。

” あっという間の半世紀” 2005.6.21(tue)

う～ん、遂に50になっちゃいました。このところいつも忙しいんですが、この時期は特に多忙です。3つの団体・会社の決算が集中するんですね。

そんな中で数週間前から本格的に準備してきまして、NPO静岡県教育フォーラムのオープンフォーラムでインターネットのテレビ電話を活用して「Webオープンフォーラム」を開設し、本日から試験運用を始めました。これにより、遠隔地の子ども達の学習指導、カウンセリングが可能になりました。詳しくはNPO静岡県教育フォーラムのオープンフォーラムのページ（現在はありません2020.8）をご覧ください。

” 心理学講座について” 2005.5.18(wed)

おはようございます。この5月から新たに心理学講座を始めました。テキストは杉田先生の「交流分析のすすめ」（日本文化社）です。読み直してみると、日頃の生活で行われる心理ゲームが多いことに改めて気づかされますね。この本に続いて、池見・杉田・新里共著「人生を変える交流分析」の読み合わせをする予定です。今年はこの本で交流分析を再度勉強しようと思っています。よろしかったら皆様もお読み下さい。実にわかりやすいで

す。今日はこのお知らせです。

”合宿の基本理念” 2005.4.25(mon)

戦後の大変動の中、社会は高度経済成長を経て核家族化が進み、自由主義、個人主義の間違った受け入れか、あるいは生活のゆとりか、隣近所の関わりから離れ始め、地域社会も崩れかけ、それに併行して成長の過程で不登校の素因が生まれ、それに起因（きっかけ）や継続因が関係し合って（この辺はもっと詳しく論じなければなりません）、不登校の児童・生徒が年々増加してきました。

私共、NPO静岡県教育フォーラムは、前身の団体の活動を含め11年余の不登校生の対応・指導の経験と、この間における本格的な心理カウンセリング研修とその実施経験から、その解消には自主性と協調性、主体性の育成が第一であり、その育成には異年齢の仲間との合宿指導が大変有効であると確信するに至っております。即ち、親元を離れ、異年齢の仲間達と群れ集う中で、現在の小社会である縦割りの小さな社会を形成し、年下の者は年上の者を敬い、年上の者は年下の者を慈しみ、お互いをぶっつけ合い、且つ、お互いを助け合い、支え合う中で、己を知り、仲間を知り、互いの存在を確認し、群れ集う素晴らしさを体得する。そして、こうした仲間達との真の心の交流を通じて、新たな人間関係を構築し、仲間達との集団行動の中で自主性と協調性、主体性を育むことが、私達が行う合宿の基本理念であります。

勿論、こうした合宿に参加しますのは不登校生ばかりではありません。いじめや虐待を受けた子ども達や、多動、ADHDの子ども達も参加してきておりますが、この基本理念は変わりません。ちょっと表現が抽象的かもしれませんが、この4月新たに私達の仲間に加わったリーダーの皆さんのために、また私達自身も常にその理念を検証し、常に共通な理念を持って活動すべくまとめてみました。いかがでしょうか？次回は本業の方の基本理念の再確認をしようと思います。

”春の最大の事業・第3回豪州・ペンリス市 春ゆめの大自然交流合宿、大成功のうちに終わる” 2005.4.8(fri)

お久しぶりです。私も大変不器用な人間でして、この3月は学習塾、予備校の新学期生募集時期で大変忙しく、おまけにこの春の最大の事業を控え、この日誌にまで気が回らなくなり、大変ご無沙汰致しました。

タイトル通り、当フォーラムの春の最大イベント・豪州交流合宿も大成功のうちに終わりました。昨日、藤枝市国際友好協会会長と共に、参加して頂きました佐々木・藤枝市国際友好協会副会長、伊藤・当フォーラムリーダーと、藤枝市長に本合宿の報告に行ってきました。

今回はオーストラリア最大の大衆紙デイリーテレグラフに、出発の前日3月31日に取り上げられ、合宿中は地元紙の取材も受け、このような事業ながら注目を浴びるようになり、

大変嬉しく思っております。勿論、今回も含めて私達が目論んでありますこの事業における参加者の心理的变化、心理的効果の実績もさることながら、これも一重に藤枝・ペンリス両市及び両市の国際友好協会のご支援の賜物であって、厚く感謝申し上げます次第です。もう参加者やその周辺から来年第4回の豪州合宿の話が出てきておまして、大変嬉しく思う反面、今回私なりにいくつかの修正点も見出しておりますので、16日の参加しましたリーダー達とのミーティングで、みんなで今回の合宿をしっかりと振り返り、第4回をまた素晴らしい合宿にすべく準備してまいりたいと思います。・・・なにか気が抜けたのか、風邪を引いてしまったみたいです。

” サンタさん” 2005.3.3(thu)

「どうだった？」(母)「サンタさんみたいな先生だったよ。」(息子)―その息子とは先日28日に入塾してきた新中1の真人君のこと。白髪交じりのあごひげに、白のダウンジャケット(中身は単なる綿、たった1980円ですから)の私を称しての言葉。

昨日の新中1クラスの授業は、冒頭この見事な表現で楽しく始まりました。30年も前の夏、由比の浜石岳キャンプ場で約150名の子供たちが3グループに分かれ、交互にこのキャンプ場に来て2泊3日から1週間のキャンプを行ったことがあります。その時最初の私のニックネームが「クマさん」。それがそのキャンプの終了時には約2週間の間に伸びたひげで「ヒゲダマさん」となり、以後ずっとこのニックネームを使ってきましたが、寄る年波が頭髪に打撃を与え、更に白髪も交じり始め、現在の風貌に。「サンタさん」かあ・・・。おでこから下の姿はその通りかも。昨日の真人君の笑顔もよかったです。

お陰様でこのところようやく静岡オープンスクール、東進衛星予備校藤枝駅前校共々新学期生が立て続いて入ってきております。ありがとうございます。いつぞやこの日誌で書きましたが、私塾というものはこの時期にこれまでの1年間の指導結果が、新学期継続数及び入塾者数という形で評価されます。少子化という言葉で言い逃れできません。生徒ひとりひとりの状況をしっかり把握しそれなりに指導してきましても、下記の日誌(2月25日付け)に書きましたように(あ!そうです、内容に一部誤りがありましたので、一部書き直しました!)、当スクールではホント素直な態度で一生懸命勉強している生徒なのに、その生徒との仲がよくないのか、入塾を見合わせるケースがありました(「その逆のパターンが1件」とはその子です)。しかし、これもそうしたことを押し退けても入塾したいという魅力を当スクールが出していないこととして、しっかり反省すべきことだと思っております。さて、まだまだ生徒募集を頑張らねば。

” 学習塾経営は教育理念追求か経営理念の追求か” 2005.2.25(fri)

ちょっと大袈裟ですが、ここ数日こんなことを考えてました。でも、やはり教育理念追求を選択致しました。

と言いますのは、卑近な話なので少しフィクション化させていただきます。つまり、いわゆ

るあまり評判のいい生徒ではない（その評判には随分誤解があります）が、私と数日話し合い、試しに今回の期末試験の勉強に 1 週間指導しましたところ、結果前回の試験よりなんと英数国理社 5 科目合計で 50 点以上の上がり 156 点を取り、本人がここで一生懸命勉強して高校に行きたいと申し出たことから入塾を認めたとの話です。彼は必ずこれまでの彼から脱皮しますね。なんか不思議ですねえ。

そんな対応をしてましたら、その逆のパターンが 1 件ありました。学生時代から学習塾を運営し 30 年もたちますと、このような話はたくさんあります。そうした子供達が見事に入学試験に合格し、進学後も度々尋ねて来てくれたり、大学進学までここに通ってきてくれたりして、昔はこうだったなあなんて言うと、ホント照れ笑いをするんですね。こんな対応をせず、常に経営理念を追求し続ければ、もっと楽な経営になるのかなあ、なんて考えたりしますが。

” 久々のカヌー ” 2005.2.21(mon)

いい天気でしたね～、今日は。ひっさしぶりにカヌーに行ってきました。3ヶ月振りですかね？カヌーは。楽しかったですよ。ね、ゆうごくに、つばさくん。そうそう、日向さんも。ゆうすけくん、指導が大分うまくなりました。ここ数ヶ月、このカヌー体験教室は雨や参加者少数で中止しておりましたが、やはり毎月開催していきたいですね。船明ダム湖（二俣町）のど真ん中に居ると、自然との一体感を感じますね。

ところで、昨日の箸作りの参加者のおじいちゃんから、下の写真の手作りの灰皿（でも私、たばこは吸いません）を頂きました。穴の掘りぬきも見事ながら、周りの亀 3 匹がなんともかわいいです。くるみの実の甲羅に、竹の枝の足、どんぐりの実の頭に目がちゃんと埋め込まれております。その表情がとても豊かです。ありがとうございます。

そうでした。藤枝南ロータリークラブ例会での講演、これはミニ講話ですね。約 45 分、NPO 静岡県教育フォーラムの宣伝をさせて頂きました。原稿無し、資料を元にお話させて頂きましたが、顔見知りの社長さんや会長さんばかりでしたので、ホント気楽でした。あのような話で謝礼を頂くなると大変恐縮致しました。当フォーラムの賛助金とさせて頂きます。こちらもありがとうございました。



”当スクール生快挙！公立高校前期入試に殆どが合格！” 2005.2.19(sat)

ほんと、いやー、びっくりしましたねえ～。先日 17 日は、公立高校前期試験の合格発表。昼 12 時過ぎから、感激、感涙の電話、電話・・・久しぶりの回転すしもゆっくり食べておられませんでした。

し・か・し、当スクール生諸君、みんなよくやりました！あの高倍率の中、2 名を除いて全員が合格しちゃいました(不合格の 2 名も当時の制度の公立高校後期試験で合格)。勿論、勉強はまだまだこれから。気を引き締めて、胸を張って通える高校生になろう！残った諸君、君らもみんなに続いて頑張ろう！な。

”明日は藤枝南ロータリークラブ例会でちょっとした講演” 2005.2.17(thu)

講演といってもホント、昼食会の後に 30 分程お話するだけなんですけど、ようやく昨夜から資料作りを始めました。昨年 11 月に行なわれた藤枝市・ペンリス市姉妹都市提携 20 周年記念式典の合間に、ロータリークラブの役員の社長さんから依頼されたお話なんですけど、同席しておりました他の会社の会長・社長さん達からも、「山下君、こういうところで君のやってることをどんどん話して、みんなに支援してもらいなよ。みんな、応援するよ。」なんておだてられ受けてしまったお話なんです。今もその社長さんからその件で打ち合わせのお電話を頂きました。私共の NPO をご支援して頂けるなら・・・しかし、どうにもこうにも話したなんでどうなることやら・・・また本誌にてご報告致します。

”私立高校一次試験合格から一週間” 2005.2.10(thu)

ご存知の通り、一週間前の 2 月 3 日正午、私立高校の一次試験の合格が発表されました。生徒達の努力で今年も当スクール生は受験生全員合格。ちょっと気がかりな生徒もおりましたので、ホッとしました。でも、誠に残念ですが、数名これを機に退塾、あるいは合格発表以来ずっと休んでおります。メールしても連絡してもそのまま。

でも、私立高校一次試験はその殆どが英数国の 3 科目、中には 2 科目という高校がある

んですね。従って、そういう生徒は受験校が決まった 12 月上旬からもう受験科目に勉強を絞ってしまうんですね。だから、冬期講習の理科・社会には身が入らず、ほぼ 2 ヶ月理科と社会を、2 科目の生徒はなんと英語も全くやってないんですね。その全員とは言いませんが、1 名を除いた残りはそんな状態です。

悲しいかな、今の制度では合格に浮かれるのも仕方ないかなあ、いやいやこれは学習の捉え方の違いです！高校も大学も義務教育でなければ、卒表検定を厳格にし、当高校、当大学は最低これだけの成績、知識・技量を身につけなければ卒業認定しないとすれば、合格発表風景も様変わりするのではと思います。それこそ合格に浮かれるどころか、さあこれからが本当の勉強だと気を引き締めるのではないかと思います。制度がそうでなくても、そんな気構えをほしいですね。そうなれば、こんなに多くの高校中退者も出ないんじゃないかと単純に考えてしまいます。如何でしょうか？当スクール生の諸君、君達はそんな気構えでいこう！

”読解力” 2005.2.2(wed)

今国会でも論議され話題になっておりますのは、勿論 OECD（経済協力開発機構）が昨年 7 月に実施し、昨年暮れ 12 月 7 日に発表された国際的な学習到達度調査の結果。これまた今話題の朝日新聞の記事でその一部を読みますと、調査は「数学的応用力」の設問 85 題、文章や図表を理解して利用し、熟考する能力と位置づけられております、本テーマの「読解力」の設問 28 題を、併せて約 2 時間のペーパーテストで行なったもので、OECD 加盟国の生徒の平均得点が 500 点になるように換算してはじき出された結果、日本は「数学的応用力」で前回（2000 年）1 位から 6 位で 534 点（11 位は香港で 550 点）、「読解力」では前回 3 位から OECD 平均レベルの 14 位に落ち 498 点（1 位はフィンランドで 543 点）となり、文部科学省が厳しい現状認識を示したんですね。

そこで、日頃特に小学生や中学生に国語を指導しておましてびっくりするのが、文の主語、述語すら掴めない子ども達がいることなんです。文の成分、即ち主語、述語は勿論、修飾・被修飾の関係がきちんと捉えられなければ、文が理解できない。文が理解できなければ、多くの文で成り立つ文章が理解できないのは当然ですね。

例えば、当スクール使用小学生教材「日本語のトレーニング・プリント①」の中に、名作・新美南吉編「手ぶくろを買いに」の一文、「雪を知らなかった子どもの狐は、あまり強い反射を受けたので、目に何か刺さったと思ったのでした。」があります。この文は「雪を」が「知らなかった」を修飾し、「子どもの」と併せてそれが主語の「狐は」を修飾、また「あまり」は「強い」を、「強い」は「反射を」、「反射を」は「を受けたので」を修飾し、「目に」と「何か」は「刺さったと」を修飾し、そして「あまり強い反射を受けたので、」と「目に何か刺さったと」が述語の「思ったのでした。」を修飾しています。（勿論、こうして文章で関係を捉えるのではなく、図にして把握するんですが。）

私共はまずこうした名作、名文、美しい日本語の主語、述語、修飾・被修飾の関係をき

ちんと把握させることから始めます。即ち、日本語の規則をきちんと学び、日本語の文章の論理性を掴み、文章を理解し、論理的思考を身につけることが国語の基礎、基本と考えております。それは高校の時の戸塚先生に習い、東進の出口汪先生の授業を受け、更に確信しました次第です。

出口先生が著書の中で（前段で引用した当スクール使用小学生教材の前書きです）こう書いております。これまでの国語の学習でとらえてきた方法、①読書指導、②声を出して読んだり、暗唱すること、③漢字・語句の記憶、どれもそれなりに効果がありますが、これだけでは効果は限定的であり、考える力は養成できません。読書も暗唱もそれを理解していなければ、結局は曖昧なままで、論理的思考に繋がるわけではありません。良い文章を理解することです。人間は文章を理解すれば、自然とそれについて考えることを始めます。漢字・語句の記憶も大切な作業ですが、子ども達が戸惑うのは言葉の使い方です。例えば「伝統」とは古くていいものが今に引き継がれることで、プラスのイメージしか持たない言葉です。「伝統美術」「伝統を守れ」「伝統校」などの使われ方からも明らかです。

それに対して、「反動」は新しい流れに対して、意地でも逆らおうとする動きのことでマイナスのイメージしか持っておらず、「反動主義」「反動家」「反動的」など、相手を批判的に言う場合に使います。

ところが、難関大学の受験生でも7,8割がこの使い分けができません。どれほど多くの本を読んでも、日本語の力がなければ、努力した半分も必要なものを吸収することはできません。日本語の力をつけ、理解力をつけ、その上で大いに読書に励むことです。

本文そのままでもなく、私のほうで少し編集させて頂きましたことをご了承下さい。いかがでしょうか？

” 静岡オープンスクールと NPO 静岡県教育フォーラム・オープンフォーラムとの違い”

2005.2.1(tue)

昨年の日誌にも書いた記憶があります、本テーマ。よく問われますので、新学期生募集時期ゆえに、もう一度明確にさせていただきます。恥ずかしながら、10 数年前から不登校関連の新聞記事やテレビ番組、あるいはニュースで、時折こんな私を取り上げて頂きましたので、小中高生のご父兄の皆様に、よく「静岡オープンスクール」と「NPO 静岡県教育フォーラム・オープンフォーラム」を混同されます。

「静岡オープンスクール」は月～土曜日の夕方から夜にかけて、あくまで進学・補習目的の”普通の学習塾”運営する有限会社です。学校の”授業復帰”を果たして「NPO 静岡県教育フォーラム・オープンフォーラム」を”卒業”した子供達も通っておりますが、その限りではないのです。勿論、私が長らくその研修を受け、勉強してきました心理学を自分自身や講師達の静岡オープンスクールの指導に活かしております。

それに対して、「オープンフォーラム」は「静岡オープンスクール」とはまったく別組織でありまして、個人、法人、団体会員の皆様に支えて頂いております特定非営利活動法人

(NPO)「静岡県教育フォーラム」が運営し、平日午前、「オープンフォーラム高校個別指導部」と併せて、不登校生、大検受験生、通信高校生の学習指導を行なう部門であります。私はこの「オープンフォーラム」を、いわゆる「フリースクール」とは認識しておりません。本業の学習塾での指導経験を活かし、あくまで「学習支援・指導」を行なっており、心理カウンセリング、教育相談は「NPO 静岡県教育フォーラム」の心理学フォーラムで行なっております。また、この春豪州・ペンリス市で大自然交流合宿を行ないますのは、「NPO 静岡県教育フォーラム」の「わんぱく自然の里」という部門です。

ここまで書きますと、なぜそんなに分ける必要があるかと問われますが、お手伝い頂いております 30 数名のリーダー、スタッフの皆さんにその活動趣旨を明確にして、それに則った指導をお願いしておりますためであり、またこの混同が現実には新学年生募集に多少の誤解と混乱を招いておりますので、少しここで述べさせて頂いております。

勿論、ご存知通り、両組織の事業は元々、もう 30 年も前になりますが、私が静岡大学の 2 年生の時に私を含め 3 名で興した会社で始めた事業です。2 年間の事業運営後その会社役員を退任し、3 年間の住宅会社営業を経て、再び学習指導と野外体験活動、教育相談とそれに伴う子供達の対応・指導を行なう学習塾を興し、それが 6 年前 NPO を教えて頂き、数名の同業者の皆様と共に「特定非営利活動法人 (NPO) 静岡県教育フォーラム」を設立、それまで私共が学習塾で行なってきました「野外体験活動、教育相談それに伴う子供達の対応・指導」を、その NPO 静岡県教育フォーラムにオープンフォーラム、心理学フォーラム、わんぱく自然の里という部門を設け、そちらに移管させて頂き、皆様の多大なご協力を得て現在に至っております。

” 私立高校一次入試始まる” 2005.1.27(thu)

今日は私立高校一次入試。昨日も今日の入試に挑む中学 3 年生を中心に個別補習に来て、9 時過ぎまで中学 2 年生の授業の合間に指導しました。

前回の日誌のテーマと重なりますが、学力の二極分化を感じます。当スクールでも、個別指導で特に学力が劣っている生徒を指導し、学力がつき次第通常クラスの授業も受けさせますが、逆に通常クラスの授業で基礎・基本、原理をきちんと理解させ、それを身につけ、個別指導でその理解を確認し、補う場合もあります。しかしながら、こうした生徒達を指導してみると、「学力が低下した」というより、彼ら、彼女達は「理解のスピードが学校の授業進度について行けず、そのままになっている」んですね。ゆっくりと基礎、原理を説明し、その理解を確認しながら指導すれば確実に学力はついていくんですね。中にはこれまで WISC の言語性及び動作性検査で一部分の評価点が平均値を下回る場合も生徒も指導してきましたが、こうした生徒はそうした検査結果を元に何をどの程度まで身につけさせるかを本人とも充分話し合っ、共通の目標を立て指導していけばその目標達成は可能と思います。要は如何に生徒の理解度を把握できるか、そして、それを元に如何にその生徒に理解をさせるか、その感性と技量だと思います。勿論、この私がそんな感性と技量

に長けているとは決して思っておりません。日々どのようにしてそれを身につけられるか勉強している次第であります。当スクール生の今日の入試の頑張りを祈りつつ、ラジオで総合学習見直しの国会議論を聞きながら、こんなことを思いました。

” 学力低下に思う ” 2005.1.22 (sat)

先日 1 月 10 日の静岡新聞朝刊第 5 面をご覧になりましたでしょうか？巨体の私が発言している写真が出てしまいましたね。実はあれは去年の 10 月に行なわれた、県教委主催「学習塾関係者懇談会」の記事であります。おそらくその会開催直後、ご存知の通り、中越地震、スマトラ沖地震と巨大地震が相次いで起こり、当会の記事がなかなか入り込めずこの日の掲載となったと察します。そんな折、本日の静岡新聞朝刊にまたまた私のコメントが掲載されちゃいました。今回の記事は昨日 21 日に取材を受けまして、お話ししました内容です。ほんとにちっぽけな塾と予備校を運営している私がこんなテーマ（教員の指導力）にコメントする立場ではないのですが、テーマがテーマだけに今回の記事についてもう少しここでお話させていただきます。

私は基本的に総合学習は自ら学び考える力の育成ゆえに賛同しておりますし、学力の二極分化の解消の一方法として有効と考えております。そもそも学力とは何かの議論にもなりますが、学力を問題解決能力、創造力として捉え、学力の二極分化、即ち学習意欲をも欠いた学力不足の子供達が増えている感があります。この 30 年間、日々小学生から高校生まで英数国理社の 5 教科の授業の準備し、生徒達に授業してきた中で常に私がその目標にしてきたのは、自身の大学受験勉強の中で出会った矢野健、遠山、小西各先生の参考書で実感したこと、即ち、その授業で中でいかに子供達が「分かった！」と実感を湧かせるかということでありました。しかしながら、たかが静大の法学科卒業の私でありまして、その能力不足で高校生の特に数学ⅢC と理系理科、とりわけ物理には限界を感じ、5 年前東進の衛星授業を視聴させて頂き、まさに「目から鱗が落ちる」授業を体験し、本日の記事の「教員の指導力」＝教師力を実感した次第です。勿論、現場の教師の皆さんも一生懸命授業をやってらっしゃることは分かります。私とて同じであります。数年前元静大教育学部教授・岡本先生（数学教育学）と出会って算数・数学教授法を勉強させて頂いたのも、自分の教師力を少しでも付けるためでありました。私共は民間でありまして、ひたひたと迫ってくる少子化と大手の商業募集化による塾生減少の中、死活をかけ必死であります。教師の皆さん、その教師力をかけお互いに切磋琢磨致しましょう！

” 大学センター試験終わる ” 2005.1.18 (tue)

一昨日、大学センター試験が終わりました。昨日は当予備校では自己採点を終えた生徒達が続々と来校し、一喜一憂。なんとも言えない雰囲気でした。これまでの大変な努力、日々の勉強の結果。早速志望校相談が始まりました。この 1 週間はびっしりと面談が続きます。青春の一時期、ひとつのことに打ち込むこともいい経験だと思います。

そんな中、豪州合宿の正式申し込み状況も日々変化し、キャンセル待ちの子ども達が気

になる。新年度生募集も待たなし。相変わらずの毎日ですね。一日を終え、深夜好きな**を飲みつつ、読書三昧がホント楽し。時々そのままうとうと。。。。。

>

” 2005 豪州・ペンリス春ゆめの大自然交流合宿」合宿のこと” 2005.1.12 (wed)

昨日 11 日静岡新聞朝刊に「2005 豪州・ペンリス市第 3 回春ゆめの大自然交流合宿」の募集記事が掲載され、早朝からその問い合わせ電話の対応に追われました。静岡新聞社様にはいつもご協力頂き、大変感謝申し上げます。しかし、ちょっと本音を言いますと、一昨日 10 日に同企画の実施説明会を藤枝市文化センターで行なった後で、参加者がほぼ確定したかと思っておりました所でありまして、ところがたまたま同行スタッフにキャンセルが生じて追加募集人数が 2 名になったばかりで、その 2 名のお申込みはお受けできませんが、その他の多数の皆様には定員によりご希望に沿えず大変申し訳なく思っております。今年の夏は 7 月下旬に常夏の沖縄・座間味交流合宿（子どもゆめ基金助成申請中）を、来年 4 月初めに、2006 豪州・ペンリス市第 4 回春ゆめの大自然交流合宿」を計画しておりますので、本ホームページを時折ご覧になって下さいませ。

” わかるということ。” 2005.1.8 (sat)

なんかこのテーマ、ずっと前に書いた記憶があります。「分かる」ということ。「腑に落ちる」「目から鱗が落ちる」。。。。たまたま昨年小論文を指導していて山鳥重先生の「わかるとはどういうことか」という本に出会い、たらたらと読んでおります。学習塾を運営する我々にとってこのテーマは最も関心のあるテーマ。。。。とまでは書いたんですが、もう朝 3 時。続きは明日に。ごめんなさい。

” 明けましておめでとうございます。” 2005.1.1 (sat)

新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。今年も宜しくお願い致します。

新年を迎え、早速娘達と初日の出を拝みに東名・富士川楽座に行ってきました。去年は雲に隠れて拝めず。今年初日の出は東名・由比バス停付近を走行中、拝むことはできませんでしたが、しっかりと目に焼き付けてまいりました。富士山も綺麗に見えました。共に写メールを表紙に掲載致します。今年には遂に 50 歳。本業に本腰を入れていこうと思っております。